

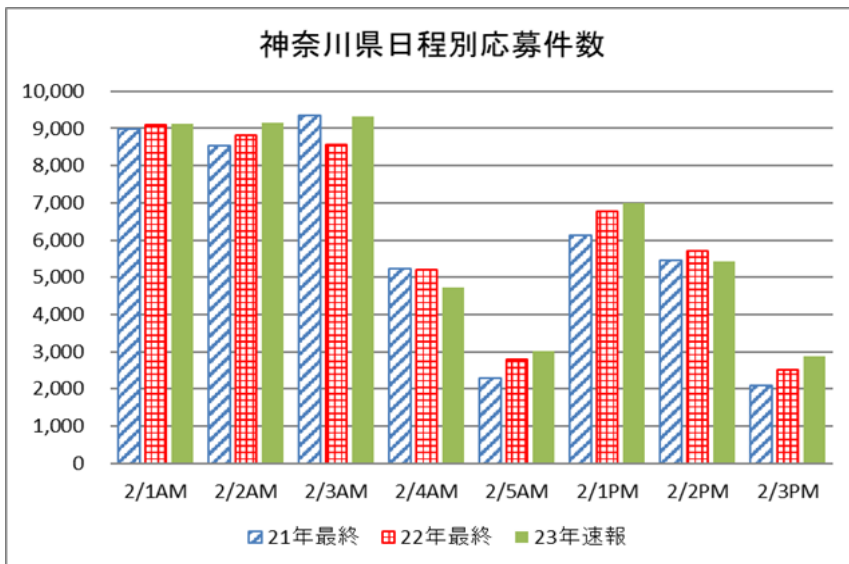
# 神奈川県私国立中入試概況

## 1. 概況 応募総数はやや増加、遅い日程での再挑戦受験生は増える

神奈川県内の公立小6児童数は義務教育学校を含んで約 75,300名で、昨年より100名あまり増えています。2月28日現在の県内の中学入試の応募総数は、国立・私立・公立一貫校の合計では約52,900名で、昨年最終より約1,000名増加、率でも2%の増加です。入試結果が未公表の学校や神奈川県では各校合同のコロナ追試もありますから、最終的にもう少し上乗せされます。

神奈川県では一部入試結果未公表の学校がありますが、2月28日現在での公表校の集計では、実際の受験者数は約39,800名で昨年より800名以上増えていて、合格者数は14,900名あまりと、昨年より約100名増えています。この合格者数にはコース制の上位コース入試での入りやすいコースへのスライド合格や、特待入試での一般合格を含んでいない学校がありますから、「入学できる」合格者数はもっと多くなりますが実受験者数が800名以上増えても合格者は少ししか増えていないという、厳しい入試だったことになります。

上のグラフは県内の中学受験の応募者数を日程別に合計し、一昨年、昨年と比較したものです。今年は速報値で、私立、国立、公立一貫校の合計ですが、県内で実施される地方校(早稲田系や日大系)の入試結果は含んでいません。東京23区や多摩地区の項では2月1日午前の応募者数が最多ですが、神奈川県では2月1日午前、2日午前、3日午前の応募者数はあまり違いがありません。1日午前は昨年より若干増え、2日午前は約4%、3日午前は約9%増えていて、昨年よりもさらに日程ごとの応募者数の差が小さくなりました。4日午前や5日午前よりも1日午後、2日午後の方が応募者が多く、3日午前までに入試を終了する受験生が多くなっています。1日午後は約3%増えましたが、2



日午後は減っています。5日午前と3日午後は応募総数が少ないものの増えていて、早い日程で不合格だった受験生の再挑戦が増えています。

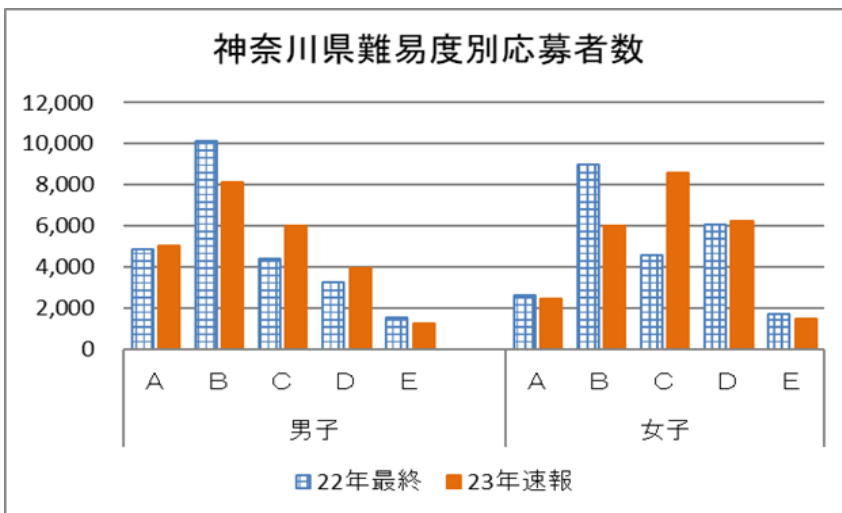
次に、難易度別での応募状況を見てみます。次のページのグラフは、各校の応募者数を難易度別に上からA～Eの5段階にグルーピングして合計し、昨年と比べたものです。グルーピングは各年の入試直前の予想難易度をもとにしていて、毎年の受験生がどの難易度の学校をどれだけ希望しているかを表しています。公立一貫校は受験生の学力分布が幅広いため外していません。共学・別学校の応募者はそれぞれ男女別で集計し、男子校・女子校と合計していますが、男女別の内訳が未公表の学校は応募者数の半分ずつをそれぞれ男子・女子として合計しました。昨年は昨年用の予想難易度、今年は今年用の難易度を用いていますので、それぞれのグループに含まれる学校は、昨年最終と今年とでは異なる場合があります。各グループの学校はグラフの下に示しています。

男子は今年もBグループが最多ですが、昨年より約2,000名、20%減りました。昨年はBグループの増加が目立っていたから、隔年現象の面はありますが、Aグループが微増で、Bグループが減ってCグループ

の増加が目立っています。この点は、昨年、やや入り易くなっていた学校がBグループからCグループに変更されていることが影響しています。人気校はありますが、どうしても優先順位で東京都心の学校に押される面があつての変化です。BグループとCグループを合計するとほぼ昨年並みになります。Dグループは約21%増えていて、Eグループが少し減っています。23区で述べたように、難度が上がってDグループに移った学校の影響はありますが、23区ほどは事例が多くはありません。

女子もBグループが減ってCグループの大きく増えています、男子と同じ理由です。ただ、BグループとCグループを合計すると昨年より約1,000名応募者が増えていて、中学受験の拡大が中堅校中心になっている表れでしょう。Aグループは若干減、Dグループは昨年並み、Eグループは少し減った結果です。

以下、各校の入試状況を見ていきます。なお、サイエンスフロンティアなどの県立・市立の各校は、公立中高一貫校のPDFをご覧ください。



◎ 難易度別グルーピング

本資料集では出願動向の分析のため、各校の代表的な入試難易度で神奈川県私立中を次のようにグルーピングしました。学校ごとの教育内容の優劣を表すものではありません。

- A…浅野・栄光学園・慶應湘南藤沢・慶應普通部・聖光学院・洗足学園・フェリス女学院
- B…青山学院横浜英和・鎌倉学園・神奈川大附属・サレジオ学院・湘南白百合学園・逗子開成・中央大学附属横浜・法政大学第二・山手学院・横浜共立学園・横浜雙葉
- C…カリタス女子・鎌倉女学院・清泉女学院・日本女子大附属・関東学院・公文国際学園・湘南学園・桐蔭学園・桐光学園・日本大学・日大藤沢・森村学園・横浜国大附属横浜・横浜女学院(国際教養)
- D…神奈川学園・関東学院六浦・相模女子大学・自修館・聖セシリア女子・捜真女学校・鶴見大附属・東海大付属相模・藤嶺学園藤沢・聖園女学院・横須賀学院・横浜国大附属鎌倉・横浜女学院(アカデミー)・横浜創英
- E…アレセア湘南・大西学園・鎌倉女子大学・函嶺白百合・北鎌倉女子・聖ヨゼフ学園・聖和学院・相洋・橘学苑・武相・緑ヶ丘女子・横浜・横浜翠陵・横浜隼人・横浜富士見丘学園

2. 川崎・横浜地区

<男子校>

聖光学院は帰国生入試の日程を1日繰り上げた以外、入試に変更点はありません。同校は以前から後述の栄光学園との間で受験生の流出入が見られ、一方が増えるともう一方が減るといった関係が見られましたが、傾向が変わってきました。一昨年は聖光学院が減って栄光学園は前年並み、昨年は聖光学院が前年並みで栄光学園が減少でしたが、今年は両校とも増加です。一昨年、昨年の安全志向が少し薄らいだようです。今年は4日の2回も増えています。合格最低点は帰国生入試

の算英選択が下がりましたが、合格者が少なく、得点分布の関係でしょう。全体的には難度に変化はなさそうです。

浅野の応募者数は一昨年、昨年とやや減っていましたが、今年は昨年並みです。2月3日入試ですから、昨年まで受験生の「早じまい」が影響していましたが、今年は学力上位層の挑戦志向が上がってきたこともあつてのことです。ただ実際の受験者数は減っていて、やはり「早じまい」志向は根強いようです。合格者数は若干増えましたが、合格最低点は昨年並みで、難度

に変化はなさそうです。サレジオ学院は1月7日に帰国生入試を新設しました。各回次合計の応募者数は一昨年が増加、昨年は減少、今年は増えていますが、新設の帰国生入試を除いても少し増えています。一般入試の実際の受験者数、合格者数も少し増えています。帰国生入試の合格最低点は未公表で、難度のコメントは控えますが、一般入試は2月1日午前のA、4日午前のBとも昨年並みで、難度はあまり変わっていないようです。

慶應普通部は人気安定していて、近年は応募者数の変化が少なく、昨年も前年並みでしたが、今年は減っています。今年は特に難関・上位校受験生の安全志向が緩和していますが、附属校よりも進学校への志向が強かったからでしょう。合格最低点は公表されていませんが、今年も補欠を発表していますから、難度はあまり変わっていないと思われます。

横浜は、併設の高校が共学化で大人気になり、男子のみの中学募集を一旦縮小、小規模な入試になっています。今年は特に入試に変更点はありません。武相も小規模な入試になっていて、一昨年午後入試を廃止するなど縮小傾向でしたが、今年は復活させました。両校とも今年も小規模な入試で、どちらも難度に変化はなさそうです。

### <女子校>

横浜市内の神奈川女子御三家から。フェリス女学院は、コロナ禍対応で今年から面接を取りやめ、筆記の人物考査に変更しました。昨年は入試直前に面接から変更しましたが、今年は最初からの変更です。応募者数は一昨年、昨年と増えていましたが、今年は若干減で、昨年並みと考えてよいでしょう。合格最低点は公表されていませんが、実質倍率もあまり変わっておらず、難度も昨年並みでしょう。

横浜雙葉は12月の帰国生入試を新設、帰国生入試は12月と2月の2回になりました。応募者数は一昨年前年並み、昨年は少し増えましたが、今年は2月の入試だけなら昨年並み、12月の帰国生入試を合計すると増加しています。近年は小規模で「選ぶ人が選ぶ」入試が続いていましたが、今年は増加したことで小規模を脱しています。合格最低点はやや上がりましたが、難化というほどではなかったようです。なお、2024年度からは一般入試を2月1日、2日の2回実施に変更

します。来年度は大きく変わった入試になるでしょう。

横浜共立は2月1日のA、3日のBの2回の入試を行っています。Aは、一昨年は前年並みの応募者数、昨年、今年は続けて減少しています。合格最低点は昨年並みで、難度に変化は見られません。Bの応募者数は一昨年が少し増えていて、昨年と今年はAと同様に減っています。少し敬遠ムードが出ているようです。Bは合格者を増やしたことで合格最低点は少し下がっていて、出題内容との関係はありますが、少し入り易くなったと思われます。神奈川学園は今年も入試の設定に変更はありません。各回次合計の応募者数は一昨年前年に続いて増加、昨年は各回次とも減少、今年は増加して人気再び上向いています。合格最低点は、2月1日午前のA4科が少し上がっていますが、出題内容の影響でしょう。2科や他の回次は昨年並みで、難度に変化は見られません。

横浜女学院は国際教養とアカデミーの2コース制で、本稿執筆時点でまだ終了していない入試があります。今年も帰国生入試の一部の日程を変更しています。2018年のコース制実施で各回次合計の応募者数が大幅に増加、特奨入試も新設したこともあって人気上がり、一昨年は各回次合計の応募者数が減ったものの、昨年は再び大きく増加して総計3,000名を超えました。今年にはさらに少し増えています。複数出願も多く、何としても横浜女学院に入学したいという受験生が増えています。合格最低点は4科入試の一部にやや上がっている回次が見られますが、出題内容の影響でしょう。昨年並みの回次も多く、難度に変化はなさそうです。

捜真女学校は12月の帰国生入試を1日前倒しとし、2月4日午前の対話型入試を3日午前に変更しました。各回次合計の応募者数は、隔年的に変化していて、今年も順番通り増えています。実際の受験者数も増えました。合格最低点は1日午前のA、1日午後のスカラ1回は昨年並み、2日午前のスカラ2回は少し下がり、2日午後のBと4日午後のCは上がっています。スカラ2回は出題難度の影響で、難度にあまり変化はなさそうですが、遅い日程のBとCはやや難化したかもしれません。

川崎市内では、洗足学園は曜日の関係で帰国生入試日程を変更、一般入試は2月1日午前の1回、2日午前の2回とも2科4科選択から4科のみに変更しました。2科受験生が減ってきたためです。一昨年は各

回次とも応募者が少し減っていましたが、昨年は1月の帰国生入試が減って、一般入試は1回が微増、2回と5日の3回は増加していました。今年は1回が減少、2回も少し減って、帰国生入試と3回は微減です。2科受験がなくなったことが、特に1回の実験者数に影響しました。合格最低点は、帰国生入試の英語と3回は昨年並みで、難度に変化はないでしょう。帰国生入試の2科+英語選択と1回が下がっていますが、帰国生入試は出題内容との関係で、難度に影響はなさそうです。1回は4科入試としては少し難度が緩和したようです。2回も少し下がりましたが、こちらは難度が緩和したと言うほどではありません。

カトリック校のカリタス女子は曜日の関係で帰国生入試の日程を1日前倒しにしました。一昨年を境に各回次合計の実験者数が減少から増加に転じ、今年も増加して3年連続です。帰国生入試は昨年並みの実験者数ですが、一般入試はこの3年間、小幅も含めてどの回次も増えています。合格最低点は各回次とも昨年並みで、難度は変わっていないようです。

日本女子大附属の各回次合計の実験者数は一昨年が少し増加、昨年は各回とも減っていて、今年2月1日の1回・帰国生が昨年並み、3日の2回は少し減っています。1回の合格最低点は昨年並みで、難度に変化はなさそうですが、2回は下がっていて、やや入り易くなったかもしれません。

### <男女校>

まず横浜市内から。公文国際学園は曜日の関係で帰国生入試の日程を変更しました。各回次合計の実験者数は、一昨年が前年並みで、昨年はやや減って、今年も減っています。2月1日午前のAの女子は昨年並みだったものの、他は減っていて、他校に受験生が流れたようです。合格最低点は本稿執筆時点で公表されていませんが、実際の受験者数も減っているのに合格者数は昨年並みですから、少し入り易くなっているようです。

山手学院は、2月2日午後のBを3日午前に移し、2科から2科4科選択に変更しました。各回次合計の実験者数は昨年まで隔年的に変化していて、順番通りなら今年も増えるはずですが減っています。Bを3日午前に移したことが原因ですが、併願の関係もあって1日午前のAや6日午後の後期も減っています。1日午

後の特待選抜は増加しました。合格最低点は特待選抜と後期が昨年並みで、難度に変化はなさそうですが、AとBは少し下がっていて、やや入り易くなったかもしれません。

桐蔭学園は昨年1日午前から5日午前に移したアクティブラーニング型入試を1日午前に戻して探究型のみらとび入試にリニューアル、2日午後の英語入試を英検加算に変更、各回次の定員配分も見直しました。各回次合計の実験者数は近年隔年的に変化していて、今年も順番通り増えました。合格最低点は1日午前と1日午後は昨年並みで難度に変化はなさそうです。2日午後はやや上がっていて、出題内容の影響で、こちらも昨年並みの難度でしょう。5日午前は下がっていて、少し入り易くなったかもしれません。中大附属横浜は入試に特に変更点はありません。一昨年は各回次合計の実験者数が微増、昨年も小幅の増加でしたが、今年も減っています。人気が一段落したのでしょうか、合格最低点は2月1日午前が下がっていて、少し入り易くなったようです。2日午後の2回は昨年並みで、難度に変化はなかったようです。

青山学院横浜英和は特に入試に変更点はありません。各回次合計の実験者数は、一昨年は減っていて、昨年も少し減っていましたが、今年も大きく増えました。人気も上向いています。実際の受験者数も大きく増加しましたが、合格者数は昨年並みで、その分実質倍率がアップしています。合格最低点は2月1日午前のAは昨年並みですが、2日午後のBと3日午後のCは上がっています。BとCは少し難化したようです。

神奈川大附属は入試日程や科目に特に変更はありません。一昨年から12月に帰国生入試、2月1日午後に2科入試を新設するなど、入試の設定を大きく変更しています。各回次合計の実験者数は一昨年がやや増加、昨年は一昨年の変更が受験生に周知されたこともあって大幅に増加、今年はその反動で少し減っています。合格最低点は12月の帰国生入試が下がっていますが、出題内容と得点分布の影響でしょう。2月1日午後の1回、2日午前の2回は昨年並みで、ここまでは難度に変化はなさそうです。4日午前の3回は昨年にも続いて上昇、少し難化しているようです。

森村学園は曜日の関係で帰国生入試の日程を1日前倒しとしました。一般入試は変更ありません。近年、各回次合計の実験者数は隔年的に変化していて、今年

は順番通り増加しましたが、大きく増えています。合格最低点は12月の帰国生入試が上がっていますが、出題内容の影響でしょう。2月1日午前の1回、2日午前の2回は昨年並みで、ここまでは難度に変化はなさそうです。4日午前の3回は昨年に続いて上がっていて、こちらは少し難化しているようです。

日吉の日本大学は曜日の関係で帰国生入試の日程を変更しました。昨年、Nスタンダードコースをアカデミックフロンティアコースに改編、グローバルリーダーズとアカデミックフロンティアの2コース制です。両コース各回次合計の応募者数は、一昨年は減っていて、昨年もやや減少、今年も減っています。以前より難化していましたから、少し敬遠傾向が出ているのでしょう。合格最低点は2月1日午後のA-2の英語選択は上がっていますが、出題内容との関係でしょう。A-2の国算選択や1日午前のA-1は昨年並みで、難度に変化は見られません。2日午後のB、5日午前のCは2コースとも少し下がっています。やや入り易くなったかもしれません。

関東学院は12月の帰国生入試を11月に変更し、科目を見直しました。一般入試は2月5日午後の2期を4科から2科に変更しています。各回次合計の応募者数は一昨年は少し減っていて、昨年は大きく増加、今年も減っていて、隔年的な変化ですが、昨年は難化していましたから、少し敬遠ムードも出ているでしょう。合格最低点は、1日午前の1期Aと1日午後の1期Bが昨年並みで、難度に変化はなさそうですが、3日午前の1期Cは下がっています。少し入り易くなったかもしれません。2期は科目が変更されたため、単純比較はできませんが、得点率は上がっていて、少し難化したようです。

系列校の関東学院六浦は2回ある帰国生入試の日程変更、2月1日午前の総合適性検査型の取りやめ、英語型入試を2月2日午後に変更、自己アピール入試の内容見直しがありました。各回次合計の応募者数は、一昨年前年に続いて増加、昨年は前年並み、今年も再び増えて段階的に人気が上がっています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は小幅の増加に留まりました。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、少し難化したかもしれません。

横浜創英は一昨年新校舎が完成、新校長による新しい教育プログラムの実施で、イメージが大きく変わり

ました。サイエンスコースは完全中高一貫、本科コースは高校入学生と混じります。今年は2月2日午後の入試をコンピテンシー入試として、2科や算数1科目からプレゼンやグループワークに変更しました。各回次合計の応募者数は増加が続いていて、特に昨年は約2倍の大幅増加、今年も増加が続いています。合格最低点は本稿執筆時点で公表されていませんが、実際の受験者数が6割増えても合格者数は昨年並みですから、難化は確実でしょう。横浜創英の系列校、横浜翠陵は入試に特に変更点はありません。各回次合計の応募者数は、以前は減少が続いていましたが一昨年反転して大きく増加、昨年、今年と増加が続いて人気が上がっています。グローバル化対応に力を入れていることで、期待する受験生も多いのでしょう。合格最低点は各回次とも昨年並みで、難度もあまり変わっていないようです。

鶴見大附属は難関進学と進学の2コース制で、今年も入試に特に変更点はありません。各回次合計の応募者数は、一昨年まで少しずつ減少が続いていましたが、人気も反転して昨年は増加、今年もやや増えています。合格最低点は本稿執筆時点で未公表ですが、実際の受験者数、合格者数とも少し増えていますから、両コースとも難度はあまり変わっていないようです。

横浜隼人は昨年2月6日午前から5日午前に移した3回を再び6日午前に戻しました。各回次合計の応募者数は一昨年、前年に続いて少し減っていましたが、昨年、今年と増加が続いて人気が上がっています。ただ、実際の受験者数はやや減っていて、合格者数は昨年並みでした。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、各回次の難度はあまり変わっていないようです。

横浜富士見丘学園は入試に特に変更点はありません。女子校から男女別学に移行して5年目です。各回次合計の応募者数は一昨年は減少、昨年は増加、今年も減少と、隔年的に変化しています。合格最低点は昨年は未公表だったため、単純比較はできませんが、難度面は各回次とも昨年と変わっていないようです。

女子校から共学化して3年目の聖ヨゼフ学園は小規模な入試の学校で、国際バカロレアのMY P (中等教育プログラム)を導入しています。国際バカロレアは注目されていますが、特殊な面もありますから、「選ぶ人が選ぶ」面が強く、一昨年は各回次合計の応募者が増え



ていましたが、昨年、今年は少しずつ減っています。合格最低点は上下が目立つ回次もありますが、得点分布の影響が強く、総じて難度は昨年並みでしょう。

橘学苑も小規模な入試の学校です。今年は6回を2月20日午前から6日午前に繰り上げ、一部試験内容を見直すなどの変更がありました。難度面はあまり変わっていないようです。なお、同校は学校改革に取り組むため、2024年度から中学募集を休止する予定です。

国立の横浜国大横浜は、一昨年は帰国生・一般合計の応募者数が少し増えていて、昨年、今年は減っています。少し人気に陰りが出ているのかもしれませんが。実際の受験者数も減っていますが、今年は一般の合格者数が増えていて、例年合格最低点は未公表ですが、少し入り易くなったかもしれません。

次に川崎市です。法政大学第二は、曜日の関係で帰国生の入試を1日繰り上げました。一昨年は各回次合計の応募者数が減っていましたが、昨年はほぼ一昨年並み、今年も厳密には増えていますが、昨年並みと言ってよい応募者数で、男女各回次ともあまり変わっていません。合格最低点は2月2日の1回が男女とも昨年並み、4日の2回は男女とも少し上がっています。出題内容との関係はありますが、1回の難度は昨年並み、2回はやや難化したかもしれません。

桐光学園は男女別学校です。今年は2月4日午前の3回を3日午前に繰り上げ、定員配分を見直しました。各回次男女合計の応募者数は、一昨年、昨年と減りましたが、今年は昨年並み、厳密には微増です。男子は2月1日午前の1回が減少、3回が増加、女子は3回が増加、2日午前の2回が少し減っています。帰国生入試の合格最低点は細かい上下が見られますが、出題内容や得点分布の影響で、難度に変化はなさそうです。一般入試は2回的女子が昨年並みだったものの、他の回次や男子は下がっています。やはり出題内容との関係はありますが、全体的にやや入り易くなったのかもしれない。

なお、大西学園は本稿執筆時点で入試結果未公表でした。

### 3. 横須賀方面・湘南方面

#### <男子校>

栄光学園は聖光学院1回との間で受験生の流れが見られましたが、聖光学院で述べたように傾向が変わっ

てきました。今年は久しぶりに応募者が増えています。学力上位生の安全志向が少し緩和してきた影響でしょう。合格最低点は昨年並みで、あまり難化した印象はありませんが、出題内容の影響かもしれません。逗子開成は、一昨年までの4年間、各回次合計の応募者数は前年並みが続きましたが、昨年は少し減って今年は増えました。学力上位生の挑戦志向の緩和で人気が上がっています。2月1日午前の1次は昨年並みの合格最低点で、難度に変化は見られませんが、3日午前の2次、5日午前の3次は上がっていて、難化したようです。

鎌倉学園の各回次合計の応募者数は、一昨年は増加、昨年は前年並み、今年は減っています。逗子開成に流れた受験生が増えたようです。ただ、合格最低点は1日午前の1次と1日午後の算数選抜が昨年とあまり変わらない水準だったものの、2日午前の2次と4日午前の3次は上がっていて、併願前提の受験生の学力層が上がっています。同校も1次と算数選抜は昨年並みの難度だったと思われそうですが、2次と3次は難化したようです。

藤嶺学園藤沢は帰国生入試の日程を変更しました。一昨年は前年に続いて各回次合計の応募者数は前年並みで、昨年、今年と少し減っています。合格最低点は2月1日午前の2科と1日午後が上がり、5日午前下がっています。5日午前は少し入り易くなったようです。1日午前午後は出題内容や得点分布の影響でしょう。科目選択の他の回次も含め、難度はあまり変わっていないようです。

#### <女子校>

湘南白百合学園は、オンラインの帰国生入試を取りやめ、国内の帰国生入試の日程を変更しました。一般入試は1回だけ、を長い間続けてきた同校ですが、複数回入試に踏み切って3年目です。一昨年は前年の反動で応募者が減ったものの、昨年、今年と大幅な増加が続いています。2月1日午後の国語1科入試の合格最低点は昨年並みですが、他の一般入試は合格最低点が上がっていて、少し難化したでしょう。

鎌倉女学院は特に入試に変更点はありません。2月2日の1次の応募者数は、一昨年は前年並み、昨年、今年と減っていて、4日の2次は今年も含め、減少が続いています。神奈川女子御三家の定番の併願校でし

だが、受験生の動きが変わってきたようで、湘南白百合に流れた受験生も出ています。1次・2次とも合格最低点が下がっていて、少し入り易くなったようです。

清泉女学院は帰国生入試の日程と各回次の定員配分の一部に変更があります。各回次合計の応募者数は、一昨年まで4年連続で増加していましたが、昨年は減少、今年も少し減っています。上がっていた人気が一段落したことや、湘南白百合に流れる受験生が出てきたためでしょう。1日午前の1期、1日午後の2期、3日午後の3期は合格最低点が少し下がっていて、やや入り易くなったかもしれません。2日午後のSP、5日午前のAPの合格最低点は昨年並みで、難度に変化はなさそうです。

聖園女学院は帰国生入試の日程を1日前倒しとし、2月2日午後を4科から2科選択(理社選択はなし)に変更、英検加点点入試の回次を変更するなどが入試の変更点です。各回次合計の応募者数は近年隔年的に変化していて、今年は順番通り増えています。実際の受験者数、合格者数も増えました。合格最低点は上下が見られる回次があるものの、得点分布の関係でしょう。難度はあまり変わっていないようです。

鎌倉女子大は国際教養とプログレスの2コース制です。現行のコース制を実施してから3年経ちました。今年は帰国生入試の日程変更のほか、遅い日程の適性検査型を取りやめ、国際教養コースの遅い日程の入試を前倒しにするなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は現行のコース制を実施してから増加が続き、今年も少し増えています。受験生に新コース制が浸透したほか、新校舎も人気の理由です。実際の受験者数も増加、合格者数も少し増えています。合格最低点は公表されていませんが、両コースとも昨年並みの難度だったようです。

北鎌倉女子は先進と音楽の2コース制で、2科や4科の入試だけでなく、1教科入試や日本語4技能入試、エッセイ入試や英語プレゼン入試、プログラミング入試など多彩な入試で、受験生の得意な面を評価しようとしています。今年は日程ごとの実施科目の新設や見直しがありました。各回次合計の応募者数は今年で4年連続の増加ですが、実際の受験者数、合格者数はやや減りました。今年も小規模な入試で、合格最低点は未公表ですが、難度に変化はなさそうです。

聖和学院も小規模な入試の学校ですが、教科の入試

だけでなくスピーチやプレゼンテーション型など、多彩な入試を実施しています。今年の一部の日程変更や科目の追加・変更がありました。今年も小規模な入試で、合格最低点は科目選択によって上下が見られるものもありますが、人数が少ないので得点分布の関係でしょう。全体的な難度は昨年並みだと思われます。緑ヶ丘女子は入試に変更点はありません。同校も小規模な入試の学校で、今年も小規模でした。難度も変わっていないでしょう。

### <男女校>

慶應湘南藤沢は、一昨年は帰国生男子の応募者が増加、女子が減少、一般入試は男子が減少、女子は前年並み、昨年は帰国生男子が減ったものの、女子と一般の男女が増えました。今年も帰国・一般男女とも応募者が減っています。帰国生の減少はコロナ禍の影響もあります。一般入試の減少は昨年の反動でしょう。1次合格者に2次試験を実施する2段階選抜で、補欠も出していて、もともと高難度ですから、難度はあまり変わっていないようです。

日大藤沢は一昨年からは併設小学校からの内部進学者の関係で募集定員を大きく削減しています。今年も入試に特に変更点はありません。各回次合計の応募者数は、昨年2月2日午後に入試を新設したため大幅に増加、今年も増えています。今年も2日午後の男子が大きく増えていて、他校併願の男子受験生が増加の中心です。1日午前の女子も少し増えました。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、2日午後には少し難化したかもしれません。他の回次は昨年並みの難度でしょう。

湘南学園は入試に特に変更点はありません。各回次合計の応募者数は一昨年が少し減少、昨年も減っていましたが、今年は増加に転じ、人気が上がっています。実際の受験者数はかなり増えましたが、合格者数の増加はそれほどでもなく、実質倍率は上がっています。合格最低点は2月1日午前のAと5日午前のDが上がって、少し難化したようです。他の回次はあまり変化がなく、昨年並みの難度でしょう。

横須賀学院は帰国生入試の日程を変更、2月2日の英語資格入試で国算の学力テストも実施、各回次の定員配分も見直しました。各回次合計の応募者数は一昨年がやや増加、昨年は一昨年並みでしたが、今年も増

えています。実際の受験者数はかなり増えていますが、合格者数は小幅の増加に留まっています。合格最低点は2月1日午前の1次Aで上昇していて、難化しているようです。3日午後の3次は下がっていますが、出題難度や得点分布の関係でしょう。難度に変化はなさそうです。他の回次は昨年並みで、難度も変わっていないようです。アレセア湘南は小規模な入試の学校で、今年は特に入試に変更点はありません。各回次合計の応募者数は少し増えていますが、難度面もあまり変わっていないようです。

国立の横浜国大鎌倉は2月4・5日の入試を3・4日に繰り上げました。一昨年は入試日程の繰り下げで応募者数が大きく増えていますが、昨年は減りました。今年の本稿執筆時点で入試結果未公表でした。

#### 4. 県央～県西方面

##### <女子校>

聖セシリア女子は曜日による帰国生入試の日程変更のほか、2月1日午後の適性検査入試を取りやめて算数1科のスカラシップ入試とするなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は一昨年の増加、昨年は減って、今年は増加と、隔年的に変化しています。合格最低点は概ね昨年並みで、全体的な難度は昨年並みでしょう。

相模女子大は帰国生入試とプログラミング入試の2回目の日程を変更しました。各回次合計の応募者数は一昨年の前年並み、昨年は減っていて、今年は増えています。中学受験の拡大もあつての応募者数増加です。実際の受験者数も増えていますが、合格者数はあまり増えていません。合格最低点は例年公表されませんが、やや難化したかもしれません。

地域は離れますが函嶺白百合は、2月3日午前の4回を取りやめ、2日午前の3回に自己表現を追加しました。小規模な入試の学校ですが、各回次合計の応募者数は増えていて、合格最低点はやや下がったものの、得点分布の関係でしょう。難度面はあまり変わっていないようです。

##### <男女校>

東海大相模は特に入試に変更点はありません。各回次合計の応募者数は、一昨年の減少、昨年は前年並みで、今年は再び少し減りました。実際の受験者数も減っていますが、合格者数は昨年並みです。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、少し入り易くなったかもしれません。自修館は曜日の関係で帰国生入試を1日前倒しにしたほか、2月3日午前のCを午後に移して2科4科から2科に変更、5日午前のDは2科から2科4科選択に変更しました。各回次合計の応募者は一昨年の前年に続いて増加、昨年は減っていましたが、今年はかなり増えました。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、実際の受験者数も増加、合格者は小幅の増加に留まっているため、少し難化したようです。

地域は離れますが、相洋も特に入試に変更点はありません。一昨年は各回次合計の応募者数が増加、昨年は減っていて、今年は昨年並みです。実際の受験者数はやや減っていて、合格者数はあまり変わっていません。合格最低点は一部上がった回次も見られますが、不合格者数はあまり多くないので、各回次とも難度はあまり変わっていないと思われます。

## MEMO